

IMF 世界経済見通しから

国際通貨基金(IMF)は10月8日、四半期ごとに見直している世界経済見通し(World Economic Outlook)の10月改定版を発表した。

1. 世界経済見通し

今回の IMF 見通しでは、世界経済は控えめな成長が続く一方、不確実性とダウンサイドリスクが拭えないとして、2013年の世界経済成長率を7月のWEO予測より0.3%引き下げ2.9%、2014年を0.2%引き下げ3.6%とした。

先進国では、財政緊縮政策の緩和、調和的な金融政策により経済活動が加速、米国・日本経済は着実に成長し、ユーロ圏も不況から脱出しつつある一方、新興国経済の多くが成長の勢いを緩めると見ている。想定される米国の金融緩和政策正常化などにより、とりわけ新興国が新たな政策対応の必要に迫られるとし、現に資本流出、通貨および株価下落、リスクプレミアム上昇などが起きていることを指摘している。

2. 先進国経済

先進国の成長率見通しは、2013年・2014年とも7月予測から変わらず、各々1.2%、2.0%とした。

ユーロ圏経済は、2013年成長率▲0.4%(7月予測から0.1%引き上げ)、2014年1.0%(同、変わらず)と、緩やかに改善に向かう見通し。政策措置がテールリスクを低減し、金融市場の安定化が図られつつあるが、失業率の高止まり、金融市場の分断化に加え、信用残高拡大ペースも弱く、成長の足元は脆弱と見ている。

国別では、ドイツが2013年0.6%、2014年1.4%、フランスが2013年0.2%、2014年1.0%、イタリアが2013年▲1.6%、2014年0.7%、スペインが2013年▲1.3%、2014年0.2%と予測。また、英国は2013年1.4%、2014年1.9%と見通している。

米国の成長率見通しは、2013年を1.6%と7月予測より0.1%下方修正、2014年を0.2%引き下げ2.6%としている。米国の金融政策正常化は米国経済の強い成長と雇用を踏まえるとした米国FRBの指針に言及している。

日本については、2014年の消費増税を前提に置きつつ、財政・構造改革の重要性に触れ、2013年の成長率2.0%(7月予測から0.1%引き下げ)、2014年1.2%(同、0.1%引き上げ)とした。今回見通しでは、アベノミクスの経過と課題、2020年に向けた日本経済予測シナリオを特集している。

表 IMFの世界経済見通し

(実質成長率、%)	2012	見通し		2013年7月のWEOからの変化	
		2013	2014	2013	2014
世界	3.2	2.9	3.6	+0.3	+0.2
先進国	1.5	1.2	2.0	0.0	0.0
米国	2.8	1.6	2.6	+0.1	+0.2
ユーロ圏	+0.6	+0.4	1.0	+0.1	0.0
ドイツ	0.9	0.5	1.4	+0.2	+0.1
フランス	0.0	0.2	1.0	+0.3	+0.1
イタリア	+2.4	+1.6	0.7	0.0	0.0
スペイン	+1.6	+1.3	0.2	+0.3	+0.1
英国	0.2	1.4	1.9	+0.5	+0.4
日本	2.0	2.0	1.2	+0.1	+0.1
新興国・途上国	4.9	4.5	5.1	+0.5	+0.4
ブラジル	0.9	2.5	2.5	0.0	+0.7
ロシア	3.4	1.5	3.0	+1.0	+0.3
中国	7.7	7.6	7.3	+0.2	+0.4
インド	3.2	3.8	5.1	+1.8	+1.1
ASEAN5*	6.2	5.0	5.4	+0.6	+0.3

*インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム

出所: IMF

3. 新興市場国および途上国

新興国・途上国の成長率見通しは、2013年を7月予測より0.5%引き下げ4.5%、2014年も0.4%引き下げ5.1%としている。主要な新興国(BRICS)を見ると、ブラジルは2013年2.5%、2014年2.5%、ロシアが2013年1.5%、2014年3.0%、インドは2013年3.8%、2014年5.1%、中国は2013年7.6%、2014年7.3%と予測。米国の金融政策正常化を見越した資産再評価により、経済成長のダウンサイドリスクは新興国でより際立っていると見た。堅調な消費、過去に照らせば良好な財政金融状況は支えとなるが、多くの国でインフラ、労働市場、金融システム等、供給サイドのボトルネックが潜在成長率を押し下げていると指摘。ブラジル、インド、ロシア、南アフリカでは、貯蓄率の上昇、生産性と競争力強化が必要とする一方、経常黒字国である中国は、消費ベースの成長促進の優先度が高いとしている。

低所得国は、旺盛な経済成長を維持しているものの、商品市況下落と国際資金調達コスト上昇の逆風を受け、今後は財政政策の機動的調整が重要になると見ている。

(調査グループ 萩野文子)